

IROTORIDORI

彩とりどり

—新潟の野鳥情報をゆるっと更新—



私と大面油田

公開日：2024年8月19日 更新日：2024年8月23日

[大面油田について](#)のページで、油田の歴史について書き記しましたが、このページでは「私と大面油田」と題して、自分の身近にある大面油田を記しておきます。

—[目次]—

- [1. 祖父の写真でたどる大面油田](#)
- [2. 現在の大面油田跡地](#)
- [3. 三條新聞の掲載紙面](#)

祖父の写真でたどる大面油田

戦後、帝石で働いていた祖父の古いアルバムから大面油田の写真を見つけました。

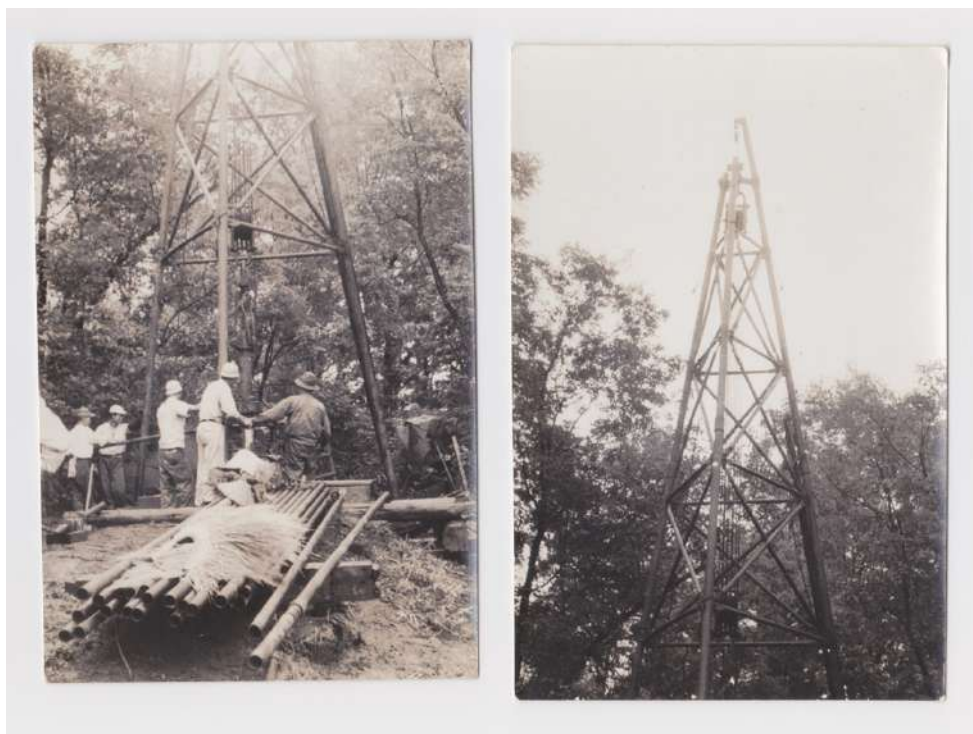
祖父は大正5年（1916年）生まれ。徴兵検査記念の写真と、昭和17年（1942年）に26才でスマトラで撮った写真が残っていたので、戦争で南方に行っていたのが分かりました。祖父は私が20才の時に亡くなりましたが、生きていたときは戦争の話はしませんでした。

終戦後に帰還してから、辞めるまでの10年くらいの間、当時は帝国石油だった大面油田で働いていたようです。

もしかすると戦争に行く前も大面油田で働いていたのかも知れませんが、スマトラは南方での油田開発の地だったので、その関係で戦地に行ったのかも知れませんが、親も生まれる前なので知っている人がいませんでした。

マメな性格の祖父だったので、写真はアルバムにタイトル付きで貼られているのですが、撮影年が記載されている写真は少なく、いつ撮られたのかは正確に分からないものが多かったです。

1950年代には、少し裕福な家庭やアマチュア写真家の間でもカメラが普及し始めたようですが、うちは貧乏だったので残っている写真は誰かが撮ってくれたものだと思います。



油田の写真（撮影年不明）

鉱場の門と思われる写真。名前がまだ「日本石油株式会社」ですね。写っている女の子は私の祖母に似ていますが、どなたかは分かりません。村誌に、帯織駅から資材などを軽便鉄道で運んだとありましたが、写真に写るレールはそれかも知れませんね。



こんな門があったらいい

一番多く残っていたのが事務所前で撮られた写真でした。下の2枚の写真は、最初に見た時は似てるけど違う場所かと思いましたが、よく見ると、同じ建物のようです。



事務所前での写真

右側の写真の看板には「有限会社 大面石油事業所（または場）」「帝国石油株式会社 柏崎鉱業所」人物で隠れていますが、おそらくその後に「大面鉱場」と続きます。

そして、左側の看板には「北越石油株式会社 大面事業場」（他の写真で文字確認）とあります。

窓ガラス・シールの位置・木の様子から、同じ建物と思われる。



帝石から事業を譲渡(売却?)された後が左の写真なのでは？

大面油田は、不採算鉱場になった後、帝石から民間に譲渡（売却？）されているので、右が譲渡前、左が譲渡後の写真なのかも知れません。

///

下の写真は日付がありました。昭和31年3月2日。帝石が大面油田を譲渡したのが昭和31年と言われているので、そのタイミングで撮影された写真かも知れません。次の、松田さんと写っている写真と服装やボールペンの角度が同じなので、同じ日に撮られた可能性が高いです。この次の写真も同様です。



事務所前にて (S31.3.2)



事務所前にて

ちなみに、3月の初めでまだ奥の屋根に雪が30cmくらい積もっているのが分かります。当時は今よりもはるかに雪が多かったのでしょうか。しかも油田は 山 で す ！冬なんてどうしていたのかと思うようですよね。



事務所前にて

下の写真は、服装などから春 or 秋でしょうかね...



事務所前にて

どうやら祖父は帝石の事務所で働いていたようです。帝石を辞めた後は長岡市の土建屋で金庫番をしていたそうなので、経理か何かやっていたのでしょうか。



帝石時代の祖父

///

昭和31年1月30日付の写真もありました。「資材調査」と記載があります。資材調査は毎月棚卸しみたいな感じでやっていたのかも知れませんが、帝石が民間に譲渡される直前の日付なので、その辺りの引き継ぎを含めた実地調査だったのかも知れません。



背景に油井が見えますね。開けた場所なので「口式第四号井」のあった場所もしくは、もっと手前の平地のように思えます。



雪の油田・資材調査 (S31.1.30)

祖父が大面油田で働いていたのは、前述の通り、戦争から帰還後の昭和20年代から昭和32年頃までだと思われます。写真の通り、ちょうど会社が変わるタイミングで在籍していた可能性が高いです。

これは実家の語り草なのですが、「じーちゃんは労働組合の役をやっていたけど、会社が人員整理をしようとした時に会社とケンカして、辞めさすならまず俺が辞める」と言って会社を辞めたそうです。この話を私は毎回「お前は私か!」と思って聞いているのですが、その辺りは血筋なのでしょうね笑。

よって祖父は大面油田の閉山までは働いていなかったのも、これも正確な閉山年が分からない理由の一つです。

他にも親戚筋でいうと、祖父の弟・祖母の兄・祖母の妹の夫が大面油田で働いていたようです。この皆さんは帝石勤務時にそれぞれ柏崎・秋田・東京に転勤になり北潟を離れていきました。よって、それらの人物を親に持つ叔父さんたちが法事などで集まると、昔話に帝石というワードが出てくるのです。

ちなみに祖母の父も油田で働いており、戦時中は軍属で南方の油田開発に就き、終戦の年の4月、帰国の途についた船が魚雷の攻撃を受けて48才で亡くなっています。阿波丸事件、ご存じですか？帝国石油の社員は450人が犠牲になったそうです。

これ、子供の頃の夏休みの自由研究でやっていたら、叔父さんたちの話も面白く聞けていたのに・・・と、今となっては後悔しきりです。

現在の大面油田跡地

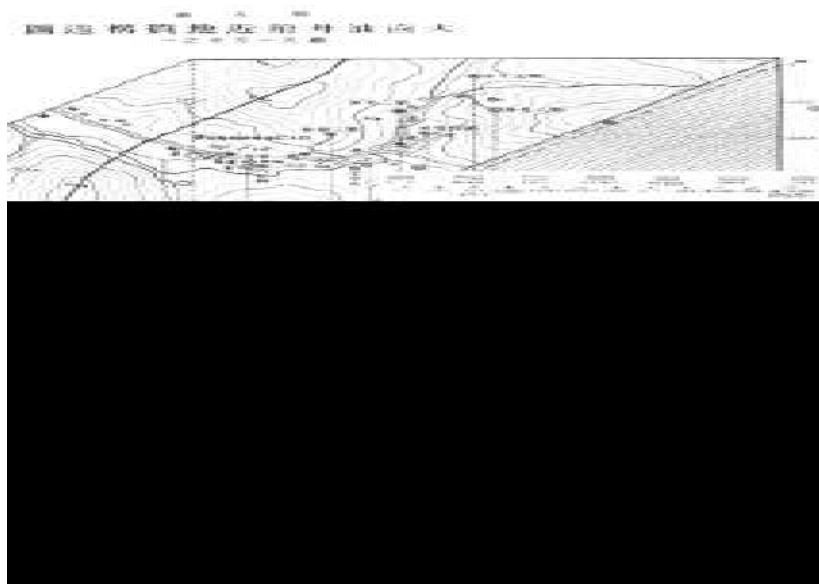
さて、かつてそんな油田があった我が集落の山ですが、今はもう遺構も何もなく、ところどころに油井や関連施設があったんだろうなあ〜という広い場所が残る程度です。

【注意】 大面油田に限らずですが、油井（ゆせい）の跡はほとんどが山中にあり、完全に埋め戻されていない場合もあります。以下にかつての地図を掲載しますが、絶対に危険な場所には立ち入らないでください。当記事を参考に油井跡等へ行きいかなる損害を受けた場合でも、筆者は責任を負いません。

以下の地図は国立国会図書館のデジタルコレクションにある大面油田の地質及び地形図より得た情報を、私がパソコンで清書したものです。大正7年時点と、時代は古いですが、道や地形は今も当時のままです。（クリックで拡大・口式第四号井は赤字にて記載）



ちなみに元画像はこちら↓↓



ロ式第四号井の跡地

今も一番変わらずに分かりやすいのは、大正6年に大噴油を見た**ロ式第四号井**のあった場所です。当時の有名な写真は↓↓でおなじみですが、



ネットで買った大面油田のポストカード（表）



（宛名面）日本石油株式会社 新潟県大面油田 ロ式第四号井大噴油

かつての地図&写真と地形を照らし合わせると、こんな感じで油井の櫓が立っていたと想像できます。



「ロ式第四号井」があった場所の現在（2024.8.1撮影）

ここは数年前に私が外来鳥のガビチョウを見て、新潟県野鳥愛護会の会報に載せてもらった場所です笑。

普段はノジコやホオジロがよく鳴いています。

↓↓ の写真は第二号井の場所。道路沿いにあったので、分かりやすく拓けていますね。行く道の手前の方では夏の熱気に混じって、油の匂いが強くしました。



第2号井の跡地 (2024.8.23撮影)

↓↓ の写真は第七号井の近く。ここも拓けています。



日本石油の事務所は川を渡った先にあったようですので、帝国石油時代にも場所が変わっていなければ、この橋の奥に事務所があったはずですが、今はもうヤブと化しています。夏に行くのはちょっと厳しい。



この奥にかつての事務所があったと思われる (2024.8.14撮影)

そして山口角太郎翁の記念碑。これだけは当時からずっとある。



ちなみに我が家（実家）の前にある電柱には今も「日石線」と書かれており、かつて油田のあった名残が感じられます。



実家前の電柱には今も「日石」の名が残る

この油田の自由研究は、いつも野鳥観察のオフシーズンである夏にやっているのですが、それ以外の季節の写真がなくてすみません。

真夏は草がボーボーに生えているので、場所の感じが少し掴みにくいところもあります。今度は春先など自然が落ち着いている頃に撮影してきたいと思います。

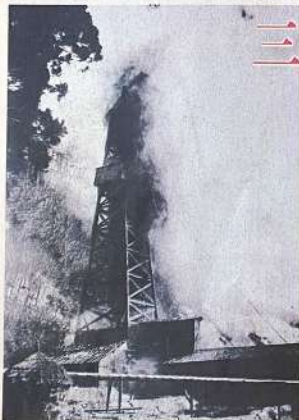
三條新聞の掲載紙面

地元紙・三條新聞で2011年の新年号にて「大面油田」の特集が組まれました。

当時を知る方々が掲載されていて、興味深いお話も載っています。三條新聞社さんにネット掲載の許可をいただきましたので、ご興味のある方はどうぞ拡大してご覧ください。

190年前に歴史が始まり昭和初期には黄金時代 一帯に100以上の油井、300人が昼夜交代で作業

三条市栄地区の『大面油田』



大面油田を一躍有名にした4 時井戸の大噴油



山口角太郎の銅像



祖父の栄市さんについて語る佐藤さん

矢田・佐藤家(前三条市副市長)に伝わる文書 隆盛期(大正)の掘削や金銭出納の記録 第二次大戦で衰退、昭和38年閉山

閉山前の前山をながし、新津の町から油井の跡が点在する。山口角太郎の発見した大面油田は、大正時代に隆盛を極めた。そのころは、大面油田には100以上の油井があり、300人が昼夜交代で作業していた。昭和初期には、大面油田は「黄金時代」の輝きを放っていた。第二次大戦で衰退、昭和38年閉山。

新津、西山とならび、越後油田の雄
閉山から50年近く、当時を知る人も少ない



ホルトが突き出た構造物の土台



佐藤家蔵の歴史館の中身の一部



現在の国道116号線。この両側に社宅などが建ち並んでいた



三條新聞社
〒952-8502 新潟県三条市栄
〒952-8502 三条市栄

第4部



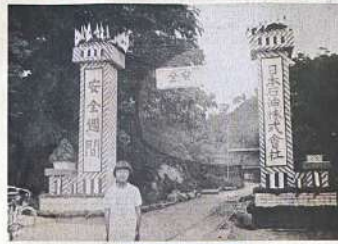
迎春
お正月とお正月の行事の歴史

三愛
三愛新聞社
本社 三条市栄区2-11-4
TEL 0252-26-4800
編集部 三条市栄区2-14-16
印刷部 三条市栄区2-14-16
販売部 三条市栄区2-14-16
ドコモ販売所 三条市栄区2-11
三愛 販売 新潟 三条市栄区
3am@sat.co.jp

『大面油田』開発が始まったのは明治 東山丘陵の長岡市浦瀬中心に手掘り



県道沿い、北湯奥地の平場。丸く円を描くように原油が広がっている



日本石油時代の会社の門柱



かつての植生もいまはやぶの中



県道沿いの山の側を掘った防空壕跡



大面油田の事業所前で従業員たち



掘削の穴はいまも不気味な口を開けている



佐藤組重興の兄弟書や金銭出納帳など



山の中の遺物を案内してくれる中野さん

**掘削に苦勞多く夜逃げする人も
明治中期に組合を設立、油田に灯**

大面油田は明治中期に東山丘陵の浦瀬中心に手掘りされた。当時の浦瀬は、長岡市の中心部から約10キロ離れた山奥の村であった。浦瀬の地質は、長岡市街の地質と異なり、油層が豊富に存在する。浦瀬の地質は、長岡市街の地質と異なり、油層が豊富に存在する。浦瀬の地質は、長岡市街の地質と異なり、油層が豊富に存在する。

大面油田の歴史は、明治中期に東山丘陵の浦瀬中心に手掘りされた。当時の浦瀬は、長岡市の中心部から約10キロ離れた山奥の村であった。浦瀬の地質は、長岡市街の地質と異なり、油層が豊富に存在する。浦瀬の地質は、長岡市街の地質と異なり、油層が豊富に存在する。

『油田(あふた)』『油免(あぶら)』の地名 寛永5年(1628年)北方村検地帳



大正油田一帯の現在の様子



にじみ出た原油が草木の根元を黒く染めている旧排水路



掘削の穴が、井戸の穴から水がたまり、落ちたら危険



「SHINAGAWA」と刻まれたれんが



掘削の穴には「近づいてはいけません」



山の中では壁とところどころに遺物が



ネジ山の切り込みが、いまもはっきり残っているボルト

大正6年4号井戸が大噴油

石油はしぶきを上げて周囲の山々に 1日の採油量ドラム缶300本

谷間ふさいで作ったため池も満杯 下流の田んぼまで油まみれに

明治40年日本石油会社の手に 近代技術で本格的採掘スタート

昭和10年ころまで採油 北潟奥地には社宅、独身寮、長屋

原油は帯織駅まで専用パイプで

昭和17年帝国石油所有に 昭和31年役員赤間氏に売却

昭和31年の秋、昭和17年より約20年、北潟奥地の山間に、明治40年に設立された日本石油会社が、近代技術で本格的採掘を開始した。

北潟奥地には、社宅、独身寮、長屋が建てられ、約300人の従業員が暮らしていた。原油は、帯織駅まで専用パイプで運ばれていた。

昭和10年ころまで採油が行われていたが、昭和17年に帝国石油が所有権を取得し、昭和31年に役員赤間氏に売却された。

しりすぼみのまま 昭和38年閉山

従業員300人が昼夜交代で

湯小屋は 繁盛、茶屋 料亭も栄 える

大正油田は昭和38年に閉山された。従業員300人が昼夜交代で働いていた。湯小屋は繁盛し、茶屋、料亭も栄えた。

閉山後は、山間に多くの遺物が残っており、山の中では壁とところどころに遺物が散らばっている。

子どものころの思い出として

森林インストラクター 中野正剛さん(註)



子どものころのエピソードを語る中野さん

北潟には今も防空壕跡

北潟には今も防空壕跡。中野さんは、子どものころからこの土地で育ち、自然の恵みを感じながら成長した。特に北潟の風景は、彼にとって特別な思い出となっている。

産油の山々は雑木に覆われ 何の変てつもない静かな里山



産油の山々は雑木に覆われ、静かな里山の風景が広がる。

産油の山々は雑木に覆われ、静かな里山の風景が広がる。かつては採油が行われていたが、現在は自然の回復が進み、美しい景観が楽しめるようになった。

山頂近くには建造物の土台 鼻をつく原油のにおい

山頂近くには建造物の土台、鼻をつく原油のにおい。かつての採油現場の跡地には、今も土台の残骸や古い建物の基礎が見られる。その独特のにおいは、多くの人にとって懐かしい思い出となっている。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

新潟県知事(13)第304号

土地・建物・不動産管理 **三條土地建物株式会社**

三井住友海上火災保険 代理店 **株式会社 水 工 舎**

三井住友海上 三井住友海上生命保険 代理店

三條市西裏船2丁目6-2(第一産業道路沿) TEL 33-1036代 FAX 33-4729

叔父が鉱夫で働いていた 運搬用トラックに乗り探検ごっこ

飯屋は繁盛、大きな鍛冶場

叔父が鉱夫で働いていた。幼少時代、運搬用のトラックに乗って探検ごっこをした思い出が、今でも鮮明に覚えている。

飯屋は繁盛、大きな鍛冶場。当時の生活様式や地域文化について、中野さんは詳しく語っている。

かき分けて進むと確かに足跡。過去の足跡を辿り、地域の歴史を学ぶ機会となった。

いまでも残る不気味な掘削の穴。かつての採掘現場の跡地には、今も掘削された穴が残っている。

だれかが後世に伝えて 花苜蓿まつりイベントに。地域の歴史を後世に伝えるためのイベントが開催された。

油田は売却決定、閉山少し前まで 1日8時間労働で採油業務



大面油田での勤務当時を振り返る渡辺さん

渡辺 貞治さん(註) 三條市東光寺

帝国石油鉱山学校で学び 南方で終戦、復員して大面油田に 独身寮で初任給1日75銭

帝国石油鉱山学校で学び、南方で終戦、復員して大面油田に。独身寮で初任給1日75銭。当時の生活と労働環境について、渡辺さんは詳しく語っている。

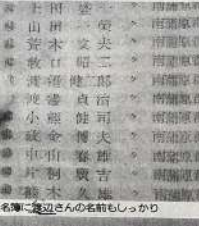
大面油田での勤務当時を振り返る渡辺さん。採油業務の厳しさや、同僚との交流について話している。

大面油田をまち歩きコースに。観光客向けのまち歩きコースが企画された。

栄商工会青年部長 片桐弘一さん(註) 片桐さんは、まち歩きコースの企画に力を入れている。



「まち歩きコース」に思いを語る片桐さん



従業員名簿に渡辺さんの名前もはっきり



渡辺さんがいまでも大事に所有している

三條新聞さん、掲載許可をありがとうございました！



ということで、祖父の写真と、現在の油田跡地の写真から振り返りをしてみました。ここはまた新資料や追加情報がありましたら随時更新していきます。

もう夏が終わるので、油田関係のページは一度公開して、また皆さんから寄せられた情報などがありましたら追加していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

各ページご覧いただきましてありがとうございました。普段は野鳥観察をメインにブログを書いています、夏にはまた油田のことを書けたら、と思います。

油田関係のページは、こちらにもリンクをまとめておきます。

- [大面油田について](#)
- 私と大面油田（このページ）
- [大面村誌](#)
- [栄村誌](#)

尚、このサイトに掲載されているすべての画像の無断転載を禁じます。